



4971

メック



コーポレートコミュニケーション室 室長 坂本佳宏氏

セミナー内容

ナノの力でエレクトロニクス業界を支える

メックは、電子基板や部品製造用の薬品を開発、製造販売している研究開発型の工業用化学薬品メーカー。スマートフォンなどモバイル端末や自動車等に内蔵される高密度電子基板に広く使用され、一部の製造工程では世界で高いシェアを獲得している。

「電子基板」に不可欠な薬剤で独占的シェアを誇る薬品メーカー

電子基板の製造時に必要となる「銅表面処理剤」を開発・販売する薬品メーカー。クライアントは基板メーカーが大半を占め、パソコンやサーバー向けのCPUを搭載する「パッケージ基板」では、独占的なシェアを誇っている。さらに、ここ数年はスマートフォン向けに売上が拡大中で、パッケージ基板からマザー基板へとその対象範囲が拡大している。

高い利益率を保持し、研究開発費も重視

グローバル展開により海外売上高は実質7割を超える。薬品の粗利が高く、営業利益率は全体で約20%以上を保持。また、売上高（連結）のおよそ10%は研究開発費へ充て、研究開発人員も毎年新人を採用し、2017年4月稼働予定の新研究所を尼崎に建設中である。また、「仕事を楽しむ」の社是のもと、理系分野の企業であるにもかかわらず、なでしこ銘柄など女性社員の活躍での表彰も多数ある。

コアテクノロジー

コアとする技術は大きく3つある。電子基板上に銅配線を形成する技術、銅の表面を粗化し樹脂との密着性を向上させる技術、異なる金属を選択して溶かす技術。中でも銅表面粗化剤「CZシリーズ」は、その密着性の高さから支持を受け、パソコンのCPUを搭載するパッケージ基板向け薬品として世界的に高いシェアを誇り、さらにスマートフォンでの使用が拡大している。

“IoT”時代の到来、「有機EL」市場の登場でさらなる需要拡大へ

メックの薬剤は、商品の軽薄短小化、ネジや接着材の不要化に貢献。特にスマートフォンは、容量強化のためにバッテリー部分が拡大化することで、他の電子部品の小型化・軽量化が求められるため、メックの薬剤の需要が拡大している。また、今後のIoT時代における多種多様なデバイスの登場や、消費電力を抑え、液晶部分製品の折りたたみも可能にする「有機EL」市場の登場で、需要はさらなる拡大を見せる。新時代を迎え、今後は通信速度の高速化、電子基板の高機能化、フレキシブル部品の多様化をキーワードに時代にマッチした製品開発に取り組んでいく。

『アマルファ』：新技術で電子基板以外へ事業領域を拡大

また、研究開発により新たな分野へも事業進出。これまで銅の粗化剤で培ってきた技術を活かし、銅以外の金属を粗化する技術「アマルファ」を開発。この技術を使うことで、アルミとプラスチックを接着剤を使わず直接接合することができるため、一部の携帯端末機器の金属筐体に採用されることになった。現在では電子基板でのみ利用されているこの粗化技術を他分野で応用し、新たな事業としての売上拡大を目指していく。